

教員養成系大学・学部における絵画教育内容の構造化に関する研究

プロジェクト代表者：小澤基弘（教育学部・教授）

1 研究の目的

本研究は、教員養成系大学・学部における美術教科専門科目である絵画の多様な教育内容を精査し、一つの系統のなかに構造化することを目的とするものである。美術における実技を中心とした教科専門の教育内容については、指導する教員の美意識や価値観が反映されることは自然なことではあるが、他方でそれは一面的な教育になる危険性も含んでいる。教員の美的価値観を前提としつつも、やはり絵画というものの含む射程を広げて、その普遍的な教育内容を可能な限り構築し、それを踏まえつつ教育を展開していく必要があると考える。本研究はそうした絵画の普遍的な教育内容を探るものである。

2 研究の方法及び観点

今現在、全国の教育系大学において絵画がどのように指導されているのか、その教育内容をまず把握する必要がある。筆者はそのために、現在インターネット上で公開されているシラバスを可能な限り検索し（国立大学法人に限る）、全体の90%近くのシラバスを把握することができた。その一つ一つを要約し、そのなかから授業内容に関わるキーワードを検出し、その使用頻度をカウントした。この作業の中で導き出された考察の重要事項は以下の通りである。

- ・油彩画に関する授業の位置付けの再検討の必要性。
- ・素描におけるデッサンの側面とドローイング的側面との融合の検討。
- ・日本画や水墨画の扱いの更なる必要性及び自国の絵画の歴史や美質について時間をかけて取り入れていく必要性。
- ・漫画やアニメーション等の映像メディアを実質的に教育する方法の検討。
- ・感性の定義や捉え方に対する大学教員へのリサーチ。学校現場における感性の育成と観察力や描写力の獲得との相関の現状に対するリサーチと考察。
- ・現代美術にまでつながる絵画の変遷に対する知的理解の重要性。
- ・個性や独自性をどのように捉えるか、またそれをどう喚起させるのか、具体的な方策についての大学教員へのリサーチ。
- ・制作学的視点に立った絵画教育の推進の必要性。
- ・学校教育における図工・美術教育との密接なリンクの下での大学の絵画教育展開の必要性。
- ・教科専門相互の連携と統合的教科内容学への志向。

3 年度内での研究の成果

上記の考察事項の検証を更に深めるために、シラバス分析において浮上した現在の教育学部絵画教育に関する上記諸問題について、全国国立系教育学部の絵画担当教員に直接アンケート質問をし、返送された27名からの回答を分析した。それぞれ自由記述による回答からは、シラバス上の記載からではうかがい知れない教育内容のディテールや考え方が熱く伝わり、今日の教育学部における絵画教育の現状をリアルに理解することが出来た。各教員は、それぞれが制作者としても積極的な活動を展開している作家でもあり、回答された見解はそうした確かな制作体験に強く裏付けられたものであると同時に、自分自身の体験が説得力ある実感となって学生へと伝えられている様子が、手に取るように理解できた。それらの意見は実に多様であった。従って、それらを分析し一つの大きな構造の中で位置づけることは極めて困難であった。本研究における分析では、それら貴重な意見を十分に吸収し咀嚼しつくすことはできなかったかもしれない。別の観点からの切り口も十分に考えられるし、もしそうしたならばまた別の結果が導かれるだろう。しかし、分析の一面性を憂慮しつつも、本研究で一つの切り口が開示されたと考える。これらの分析結果を踏まえて、以降の研究では更に視点を微視的にシフトしながら、教育学部における絵画教育の現場を実際に取材し、そこで行われている絵画指導の具体的アプローチを検証していかねばならない。

4 今後の研究の展望

上記シラバス分析及びアンケート結果の分析を通して、絵画教育内容に何が求められ、またそれを通して学生の何を伸ばし高めるか、具体的にになってきた。今後の研究では、更に各絵画教員に近づき、それぞれが実際に大学で教えている教育内容を具体的に現場に向き検証し、幾つかのそうしたデータから、よりリアルに絵画教育の現実とそれが目指すものを把握する必要がある。つまり、シラバス分析・アンケート分析・現場調査の3つのリサーチ・データをまずは収集整理することにより、次の段階である教育内容の・構造化が可能となるのである。現時点では、現場リサーチとして、既に島根大学及び岡山大学に赴き、それぞれの絵画教員の授業を見学し、その内容、それぞれの教員の教育方針とその理念についてリサーチした。この研究を続けるためには、さらに4校程度の大学に赴き、同様のリサーチを行う必要があるだろう。

以上のデータに基づきながら、本研究の最終的目的である構造化が実現できると考える。その折には、系統的な教育内容、その目指すもの、学年進行の対する教育内容の変化の必然性等々、極めて具体的な形で、絵画教育内容の構造化が提案できるものと考えられる。